

ブランチクラス

ビギナーズ・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室

11月8日(火) 1:30-4:00 講師 篠塚昌子

12月6日(火) 1:30-4:00 講師 疋田千鶴子

¥500

お問合せ: 渋谷明美 047-351-8581

ソーシャル・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室

11月5日(土) 1:30-4:00 講師 小山かおる

12月13日(火) 1:30-4:00 講師 寺久保ヒロ子

¥500

お問合せ: 寺久保ヒロ子 03-3801-6139

ブランチ行事ではマスクを

コロナ感染は沈静化に向かっていますが、いまだ終息にいたっておりません。クラス、ダンス会ではいままでどおりマスクを着用し、適時手指を消毒してください。手袋着用は不要です。

New Year Dance 2023

2023年1月14日(土) 1:00-4:30
赤羽会館 ¥1,000 みなさま大勢のご参加を

New Year Jig	J32
Orpington Caledonians	R32
Miss Milligan's Strathspey	S32
The Jubilee Jig	J32
MacDonald of Keppoch	S32+R32
12 Coates Crescent	S32
The Westminster Reel	R32
Bratach Bana	R32
Balmoral Strathspey	S32
EH3 7AF	J32
Scott Meikle	R32
Hooper's Jig	J32
The Minister on the Loch	S32
The Deil amang the Tailors	R32

エリザベス2世女王死去 (2022.9.8 本部ニュース)



2013年7月1日 戴冠60年記念でホリールード宮殿に招かれたRSCDSメンバー。
女王のうしろにジョン・ウィルキンソン(チェアマン)とルース・ビーティ(前チェアマン)。

2022年9月8日木曜日、私たちの名誉総裁(ロイヤル・パトロン)、エリザベス女王2世陛下が亡くなられたことを

知り、私たちは大きな悲しみに包まれた。

RSCDS と王室とのつながりは 1932 年にさかのぼり、本部資料庫には、ソサエティの出版物に関して当時のメリー王妃（ジョージ 5 世王妃）と、イザベル・スチュアートおよびジェームズ・マリー卿との通信が残っている。

1946 年、SCDS はエリザベス女王にソサエティの名誉総裁（パトロン）就任を請願し、その請願は 1946 年 12 月 20 に採択された。

1951 年 11 月、国王ジョージ 6 世は、ソサエティの名称の接頭辞に「ロイヤル」を用いてよいとの認可を与え、それ以来ソサエティは RSCDS となった。ジョージ 6 世の死去にともなって王位を継承したエリザベス 2 世陛下は、ソサエティに王室の後援を喜んで与えた。



1961 年 6 月 28 日 本部を訪問。左からフィリップ殿下・女王陛下・エリザベス皇太后

女王陛下の母君である故エリザベス皇太后はソサエティの活動を積極的に支援していたが、女王陛下もまた、スコティッシュ・カンントリー・ダンシングとの生涯にわたる献身的な関係を持たれた。王室の SCD に対する熱意は、長年にわたって続き、陛下は 1961 年にソサエティ本部を訪れ、1973 年のソサエティ 50 周年記念ボールで踊るなど、ソサエティに関連する多くの催しに出席された。

多年にわたり、女王の栄誉と王室のイベントのために、数多くのダンスが作られている。たとえば、2003 年に出版された Book 43 は、2002 年の女王陛下の即位 50 周年（ゴールデン・ジュビリー）を祝賀するダンス集であった。

いま、この悲しみは全世界の会員が分かちあっており、私たちは陛下のご尽力を愛情と感謝をもって思い出している。

王室のかたがたに深く哀悼を表す。

- 9 月 12 日 チェアマンのローナ・オーグルビーが聖ジャイルズ大聖堂における葬礼に参列した。
- 9 月 15 日 グラスゴー市議会とアン王女が出席した女王への感謝会に、元チェアマンのルース・ビーティを含むソサエティ会員が参加した。
- 9 月 19 日 ウェストミンスター寺院における国葬にローナ・オーグルビーが参列した。

東京ランチでも facebook で弔意を表しました

東京ブランチレター No.118 はなんとカラー化！ただだけでなく、内容もこの時期だからか Dance Scottish at Home (DSA) からの記事を読みやすく翻訳してくれて、大変興味深いものでした。しばらく連載されるそうで、私は楽しみにしています。

さて、5 ページの下方に次の文章があります。

みなさんはジョン・ボウイの本の中であって、RSCDS が採用した2つのダンスをご存じだろうか？* そのダンスを踊られたことがあるだろうか？

*Miss Murray of Lintrose (R32) Book 27 と Miss Murray of Ochertyre (R16) Book 11 である。

この部分について、思い出してみました。

Miss Murray of Lintrose は踊ったことがあります。初めは「変わった Allemande があるんだ」と感心しましたが、現在は「Society はこんな踊り方で出すべきではなかった」と考えています。

18 世紀末頃は lead down the middle and up, allemande を含むダンスが多くみられます。特に違和感はありませんが、当時の allemande は大雑把に言えば現代でいうターンであり、また lead down the middle and up は 2nd place に戻って、progression が済んでいたと思われまます。

ジョン・ボウイ による原文は次のようです “Miss Murray, Lintrose”。

Cast back one couple: allemande half round: cast back another couple: allemande half round: lead up the middle: cast off: lead down one couple and cast up one couple: first lady allemande with second gent: first gent allemande with second lady

ここでダンスを再構成するにあたって、allemande の解釈に現代の動きを当てはめたために Book 27 のダンスは私にはとても踊れないものになってしまいました。楽しく踊れる方が羨ましいと思います。

現代の allemande の動きがいつ頃からなのかわかりませんが、イブリン・フッド Evelyn M. Hood の本によれば、「ミス・ミリガン が、昔はどう踊っていたのだろうとずっと考えて、その手がかりがないまま、ある日母親に尋ねたところ、彼女が若い頃に習った方法を踊って見せた」とあります。

現代の allemande が progressive figure になったことで、その後のダンスの枠が広がりました。

レター 10 ページの初め “Twenty-First of September” のような 3 couple allemande や CW 回りなどの変形もできるようになりました。もっとも “Twenty-First of September” も 1796 年に記録されたダンスなので、オリジナルとはすっかり変わった動きなのかも知れません。原文を見たいものです。

Miss Murray of Ochertyre は試したことがありません。この時代に多い、3rd couple は立っているだけという短いダンスで、踊ってみようと思いましたが、踊り方で迷ってしまいました。

1-4 First and second couples four hands round doing two slip steps then two cross jumps twice.

上記の 4 小節を繰り返して元に戻りますが、1995 年版 TACNOTE では「逆回りに繰り返して元に戻る」、Keith Rose’s Crib Diagrams では「同一方向に繰り返して元に戻る」となっているのです。Manual に指示はありません。個人的には前者を支持したいところです。

ニューカッスル・ブックの ダイアグラム

前号でこのブックをご紹介し、その中でダイアグラムはないとお伝えした。その後、Keith Rose’s Crib Diagrams に、すべてのダンスについてダイアグラムがアップロードされた。わずかにミスもあるが、ダンス内容解釈に十分に役立つと思う。(Tom)

ダンス名のうしろにあるもの (3) by Peter Knapman, Dance Scottish at Home, Issue 36, 7/5/2021

Balmoral Strathspey – Book 22 (Balmoral – Robert R Gourlay)

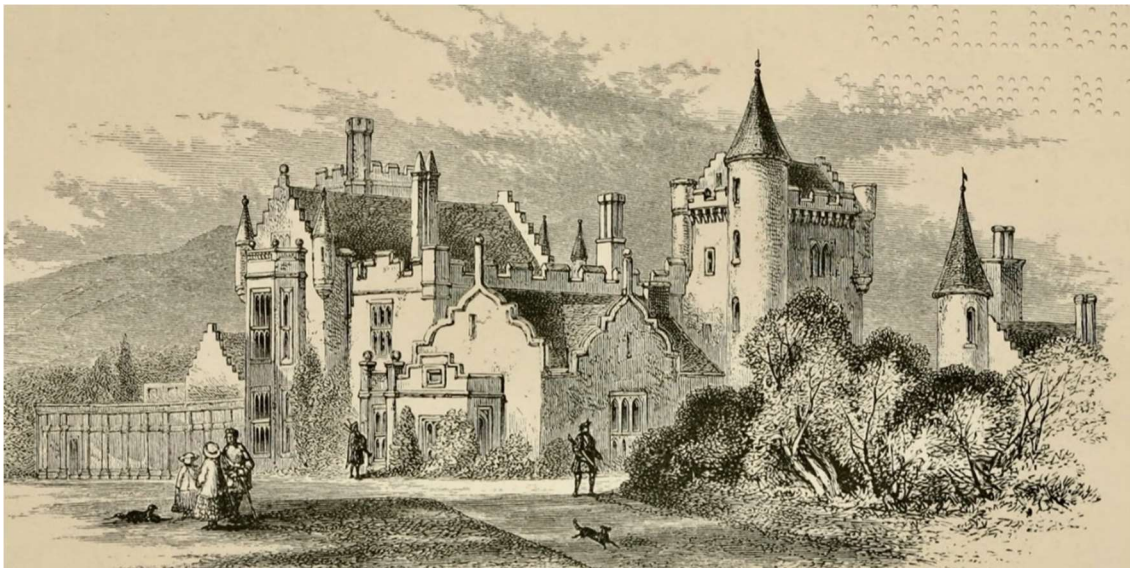
The Duke & Duchess of Edinburgh – Book 39 (The Duke & Duchess of Edinburgh / Birkhall – John Robertson)

The Royal Deeside Railway – Book 40 (On the Fiddle – Joseph Hornsby)

さきごろ The Duke of Edinburgh エジンバラ公フィリップ殿下が亡くなりました。今週の'What's Behind the Name'はロイヤル・ディーサイドに関する3つのダンスを取り上げるのが適切と思われる。

バルモラル城について

バルモラル城は14世紀にさかのぼる歴史があり、ロバート2世が狩猟ロッジとして建てたものである。城としての記録はゴードン家の管理の下で15世紀に始まり、城館が造られた。19世紀の初め、サー・ロバート・ゴードンは城館に、小塔のある豪壮な拡張部分を含む大きな変更を加えた。1847年にサー・ロバート・ゴードンが死去したとき、不動産の所有権はアバディーン卿に戻り、バルモラル城は手に余るとして適切な売却先を探していた。



ビクトリア女王とアルバート殿下は1842年の最初のハイランド訪問ののち、ハイランドを愛するようになった。その後の数年間に女王と殿下はハイランド各地に滞在したが、すぐに永続的な別荘を求めようと決めた。ディーサイド（ディー川流域）が最適な場所の1つに挙げられた。バルモラル城は入手可能であり、1848年、2人は物件を見ることなく、家具とスタッフを含む権利を取得した。



王室の一行は1848年9月に到着し、ビクトリア女王が日記に記したように、ここが理想的な場所であることがわかった。「すべては自由と平穏がただよっているように思えた。世界や悲しいできごとを忘れさせるように見えた」。一つ問題があった。王室のニーズに対して、もとの城館と拡張部分は小さすぎたのである。もとの建物に大幅な変更を加え

ることも考えられたが、新しい館を建てるのが命じられた。現在のバルモラル城は1853年に完成し、古い城館は取り壊された。

完成以来、バルモラル城は歴代の英国王室のお気に入りの場所となり、毎年8月に滞在している（1997年8月31日にダイアナさんが亡くなったとき、ウィリアム王子（15歳）とヘンリー王子（13歳）はここに滞在していた）。

広大な敷地

バルモラル城は、建物と庭よりもはるかに広い2万ヘクタール*の敷地の中にある。ディー川の穏やかな流れから、南のロッホ・ミュークを囲むすばらしい山岳地帯にいたる広大な一帯である。もっともよく知られている山はロハナガーで、山の大きなカールにあるロッホ、ロハナガーにちなんで名付けられたものである。ロハナガーはバイロン卿の詩（作曲はサー・ヘンリー・ビショップ）によって不滅のものとなっている。

(*2万ヘクタール：東京23区の1/3の広さ。港・渋谷・目黒・世田谷・品川・大田区がすっぽり入る)



ロハナガーのカール（圏谷ー氷河で削られた谷）

ロハナガー（1140m）への登山はやりがいのある経験であり、頂上に達して景色を見れば、バルモラル一帯の1000m級の山5峰をチェックすることができ、山歩きを続けたいと思うだろう。ロッホ・ミュークを効果的に一周する爽快な熟練者向けのウォークー午後の散策よりもちょっときつい29kmは、視界が悪いときはまったく不安になるので、すばらしく晴れた日のためにとっておくべきかもしれない。

Birkhall バークホール



バルモラルのバークホール

バルモラル城だけでなく、敷地には小さなコテージから実質的な邸宅まで多くの建物がある。その1つがバークホールで、元々はビクトリア女王の長子、エドワード皇太子のために購入されたものである。バークホールはロイヤル・ファミリーがずっと使っているが、1947年、今の女王とフィリップ殿下が結婚したとき、2人はこの地区の住まいとしてここを使用した。その結婚を祝したのがこの記事の第2のダンス、*The Duke and Duchess of Edinburgh* である。多くのみなさんが知ってのとおり、このダンスには推奨曲が2つあり、*The Duke and Duchess of Edinburgh* と、第2チューンの *Birkhall* である。

パークホールの名前は文字どおりスコットランド語の Birk（白樺）Hauch（川沿いの牧草地）に由来する。1715年に建てられ、1849年にアルバート殿下が購入する前は、アバーゲルディ領の一部であった。1950年代にエリザベス皇太后がもとの家を拡張した。現在、パークホールはチャールズ皇太子とカミラ夫人が使用している。

ディーサイド鉄道

ビクトリア女王とアルバート殿下が初めてスコットランドを訪れたとき、ロンドンからの旅はまったくの冒険旅行であったと思われる。リース（エジンバラの外港）までは船、そのあとは馬と馬車で各地をめぐる。しかし、この時期は急速な鉄道建設のときでもあり、ビクトリア女王が初めて鉄道で旅行したのは1842年であった。1850年に鉄道はアバディーンまでつながり、ディー川渓谷に沿って西に向かう支線敷設が計画された。間違いなく王室によるバルモラル購入によるものである。アバディーン-バンホリーの第1区間は1853年に開通し、1866年にはバルモラルまで19kmのバラターに達した。ビクトリア女王は鉄道旅行を100%受け入れ、快適に国を回れるよう特別な御料車（鉄路上の宮殿）が造られた。ビクトリア女王の北への旅行は思いがけなくもずっと簡単になり、そしてわれわれは3つ目のダンス、*The Royal Deeside Railway*を持つことになった。

輝かしい初期のころから1960年代の路線廃止にいたるまで、ディーサイドはバルモラルに旅行するロイヤル・ファミリーが使っていたロイヤル・ラインであった。王室がバルモラルにいるとき、そしてVIPが通るとき、特別列車「Queen's Messenger 女王のメッセンジャー号」が毎日運転された。VIPのうちの1人はロシア最後の皇帝、ニコライ2世（妻のアレクサンドラ妃はビクトリア女王の孫娘）だった。

終着駅のバラターは、いなかのスコットランド支線駅を想像するなら、いくらか宮殿であり、貴賓待合室を備えていた。廃線後、優雅な建物はレストランとビジター・センターに改装され、レプリカであるがビクトリア女王の御料車を見学できる。2015年に火災にあったが、復元され、再び一般公開されている。



バラター駅

ディーサイド線にはいくつかの珍しい事物があったが、それはカンバス・オー・メイ駅にある古いフェリー・イン・ホテルにもある。その一角は鉄道計画線の延長線上にあった。結局ホテルの角をつぶし、カッタウェイ（切り取り）コテージとなった。ブレイマーまで鉄道を延長する計画があったが、これはバルモラル敷地を横断するものであった。王室は家族のプライバシーへの影響をおそれてこの延長に反対し、計画は取り下げられた。

廃線となったが、バンホリー近くの一部は復元鉄道になり、現在一般に公開されている。アバディーンからバラターまで、廃線跡の多くはいま遊歩道「The Deeside Way」になっている。

今週の DSAH は旅行がテーマであり、著名な旅行作家の誕生と、急行列車フライング・スコッツマンに関係のある有名な土木技師の死去について述べる。

1740 年 10 月 29 日 (同時代の日本人に、杉田玄白)

ジェームズ・ボズウェル (アフレックの第9代郷士・弁護士・日記作者・紀行作家) がエジンバラで生まれた。ジェームズ・ボズウェルは、多彩としか言えないような人生をおくった人である。彼はヨーロッパ中を広範囲に旅行し、紀行作家として成功し、多くの「夜の淑女」たちとかかわりがあり、仕事の日々をエジンバラとロンドンに分け合って過ごした。鉄道の出現以前であったにもかかわらず、である。

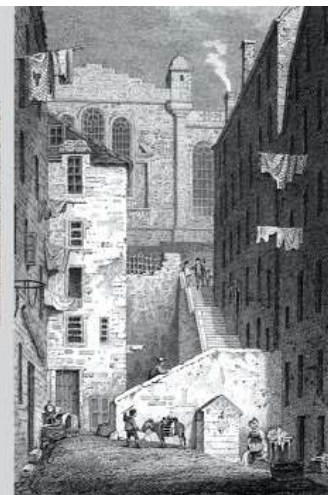
彼は、文壇の大御所サミュエル・ジョンソン博士との友情と、その友情にもとづく 2 冊の本の作者として知られている。「ヘブリディーズ諸島旅行日記」と「サミュエル・ジョンソン伝」である。ボズウェルの記述と、ジョンソン博士の著書「スコットランド西方の島々への旅」の対比は興味深い。12 週間以上にわたるスコットランド周遊は、馬、そして屋根のない小舟による旅であった。



James Boswell of Auchinleck



The Back Stair behind parliament close, near Boswell's birthplace



生家近くの石段

ジェームズ・ボズウェル・オブ・アフレック 居住地の銘板

1934 年 11 月 3 日

土木技師のロバート・マカルピンが死去した。彼はロバート・マカルピン社を創業し、ウェスト・ハイランド線のマレイグへの延長工事で功績を残した。

マカルピンが 1857 年に 10 歳で学業を終えたとき、彼が 22 歳で自分の会社を設立すること、50 歳でグラスゴー地下鉄のクライドバンク駅に隣接してシンガーミン工場を建設し、そして「コンクリート・ボブ」のニックネームを証明する大工事に着手しようとしていることを、だれも予想しなかったと思う。(ボブはロバートの愛称)。



The Jacobite steam train crossing 'Concrete Bob's' masterpiece Glenfinnan Viaduct

コンクリート・ボブの傑作、グレンフィナン高架橋を通過する蒸機列車ジャコバイト号

フォートウィリアムからマレイグまで、ウェスト・ハイランド線の 65 km の延長工事は 1897 年に開始され、1901 年に完成した。いま、この鉄道は世界でもっとも風光明媚な路線の 1 つに選ばれている。この路線はむずかしい地形にあ

り、橋、高架橋、トンネルの建設を含み、ロバート・マカルピンはコンクリートの用途を開拓し、時間と労力を節約する新工法を採用した。この路線でもっとも有名な建築物はグレンフィン高架橋 Glenfinnan Viaduct である。広い谷を横切って展開する、21本の優雅なアーチ式コンクリート橋脚の湾曲構造で、ハリー・ポッターのファンや鉄道愛好家によく知られている。

言い伝えによると、建設中に作業馬と台車が橋脚のあいだに落ちた。現代の衛星写真を使った調査では、グレンフィンナンではその証拠は見つからなかった。だが、言い伝えは本当のようである。場所が間違っていただけで、不運な馬の遺体は、線路に沿ってさらに進んだロッホ・ナンウアム湖 Loch Nan Uamn の高架橋の中央橋脚で見つかった。

ロバート・マカルピンはまた、「フライング・スコツマン」の記事で、同機関車が1973年にアメリカで立ち往生したとき、救出したウィリアム・マカルピンの曾祖父である。

Unit 1 試験

東海ブランチ主管で行われます。
受験申込締切り 2022.12.16 まで
願書提出と受験料支払い 2022.12.27 まで
試験日 2023. 3. 11
担当 東海ブランチ 大江佳子
連絡はメールで chouchou14201@ybb.ne.jp

ホームページ掲載は1か月後に

今までブランチレターは発行と同時にホームページに掲載していました。このやり方では、会費を払っているメール会員と普通の人との優位さがなく、メール会員はなんのために会費を払っているのか、ということになります。メール会員に配慮し、今後ブランチレターのホームページ掲載は発行から1か月後となります。

24時間ダンス

2023年9月30日(土) 1:00-4:30
日暮里サニーホール(日暮里駅南口3分)
RSCDS 100年を記念し、この日、全世界でダンス会が行われます。日本では3ブランチ合同で開催することが計画されています。

インターナショナル・ブランチ

ーウィークエンド2024は長野でー

インターナショナル・ブランチは2年ごとに世界のどこかで国際イベントを開催しており、2022年9月はイタリアでウィークエンドが行われました。

2024年秋は日本・長野県でウィークエンドを考えているとのこと。たくさん日本人ダンサーとともに行事を盛り上げたいとのこと、いまからお心づもりを。

ウィークエンドは2024年に延期

外国人講師に来日を打診する時期にきていますが、コロナ感染の先行き不透明で、外国人講師の入国に不確定部分が残るため、2023年のウィークエンドはとりやめ、2024年に延期します。

ショップ注文に住所・氏名なし

ニューカッスル・ブック&CDのお渡しは11月上旬になります。申しわけありません。なお、ご注文文に住所・氏名無記名のもの(9/4 横浜貯金事務センターから送金)がありました。どなたにお送りすべきか、お心あたりのかたは、ショップ担当大野宏子 042-576-9587 までご連絡を。

鳥山豊喜さんにブランチ賞



今までの功労を称え、6月4日のブランチ年次総会で工藤祐亨チェアマンから鳥山豊喜さんにブランチ賞が贈られました。

他ブランチからクレーム

ー本部会費減額でー

3ブランチ会議で本部会費は同一金額と決めたのに、東京ブランチはなぜ減額したのかと、他ブランチからクレームをうけました。次年度から会議決定を順守します。

書類の保管期限は3年

新旧の業務引継ぎを行なったところ、6、7年前のクラス参加者シート、古い預金通帳など不要と思われる書類が相当量ありました。残すべき記録とそうでないものを各委員が自主的に判断し、保管期限3年を目安に不要な書類は処分することにしました。